

砂地でも **太く**。ねぎの窒素施肥

露地ねぎの低肥沃度土壌に対応する窒素施肥技術

概要 Abstract

土壌の養分が少ない土壌で、露地ねぎは標準的な肥料の量で栽培しても細く軽く、取引単価が伸びない実態でした。

対策として、窒素施肥を養分の少ない土壌に合わせて改善しました。緩効性肥料による定植前の苗箱施肥や窒素3kgN/10a増肥が有効でした。



成果 Results

苗箱施肥



苗箱施肥の効果
(標肥 (-2) 区との比)

1
本重

103

収量

113

粗収入

113

苗箱施肥は定植前日までに88g/冊
(CP303の場合) を施肥します。

本圃の施肥は窒素成分が

基肥 6 + 苗箱 2 + 分施① 5
+ 分施② 5 (kgN/10a) となります。

窒素増肥

+3増肥の効果
(標肥 (-2) 区との比)



1
本重

103

収量

114

粗収入

114

窒素増肥は、分施を1回増やし、
基肥 6 + 分施① 5
+ 分施② 5 + 分施③ 5 (kgN/10a)
となります。

普及 Dissemination

窒素肥沃度水準 I のうちCECが低い土壌において、規格内収量が4,000kg/10aを超えるが、ねぎの1本重が不十分な条件で活用する。

連絡先 Contact

農業研究本部 企画調整部
北海道原子力環境センター駐在
0135-67-7620